

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

# 中国苗族の紛争及び解決

## 貴州苗族の事例を中心に

ミャオ族の紛糾解決における法律には、『榔規』や『理詞』などがある。『榔規』とは主に、「議榔」や「埋岩」と呼ばれる会議や儀式によって制定・公布されるもので、『理詞』とは、民衆の中で特に威望のある人物を理老、すなわち裁判官として、討論を通じて定められるものである。

1956年以前、ミャオ族の社会では、文字が存在せず、その法律の制定や執行は口承を通じて行われていた。後にミャオ族が漢文を習得すると、従来の口伝に代わり、石碑や木刻などに記された漢文を通じて、法律の規定や執行が伝承されるようになった。

ミャオ族の紛糾の原因の多くは土地、婚姻関係に関わるものであり、これらは理老や款首、寨老などと呼ばれる裁判官による調停を通して解決されてきた。



本報告では、中国貴州苗族の紛糾解決事例をもとに、文字を持たない彼らがどのように口承を用いてその法の制定、執行、普及及び紛糾解決を行ってきたのかを整理・紹介するとともに、中国ミャオ族の文化伝統、及び社会秩序維持の経験についての考察を行う。

◆ 日 時: 2014年2月27日(木) 17:00-18:00

◆ 報告者 楊琴氏(東洋文化研究所 訪問研究員)

◆ 会 場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

◆ 参加費: 無料(申し込みは不要です)

### 東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索



東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク  
Network for Education and Research on Asia

